(平成二十九年度寮歌

樹間に薫る雪煙 霊舞い遊ぶ繊細のれいま あそ せんさい の花ぞ柔らかに

蒼空麗しき北の幸 白妙 綻 ぶ棹透り

憂き世肴に耽る子ら 枯淡の美にも感激ずや
エートル 
エーー 
おもあ

> 振れば残映光なく 雪の波打つ海原かります。 落葉千々に原始林を抜け 血潮滴 るナナカマ

自然に根ざす孤独得てしばんねっことくえ 冬の無情な愛を知る
をゆる むじょう あい し

枯れ蔓覆うこの寮にかがのるおおりののないのである。

散ればこそよと小夜嵐

喧騒遠く鎮まりて

黙す吹雪にい 愁い込めたる赤天も すれ
こ 銀壷に燃ゆる胸の中も
ぎんこ
も
むね
ち に命冴ゆ

帆ほ 立だ つ遊子馳せし澪 き雲海に唯独り

冠花 莙 作歌

佐藤亮君

作曲